

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ
HONBETSU

2018
December
No.1082

12月

表紙

第19次本別町中学生・高校生オーストラリア・ミッチェル訪問団が、ミッチェル市役所にてロンダ・サンダーソン市長（左から5人目）を表敬訪問



Pick up

- ✿ 第19次 町中学生高校生ミッチェル訪問団研修体験記
- ✿ 気を付けよう！あなたを狙う悪質請求
- ✿ 本別のだいどころ

第19次本別町中学生・高校生オーストラリア・ミッチェル訪問団研修体験記

町中学生・高校生国際交流派遣事業の訪問団（団名：Bean Club）の中学生10人が10月10日から18日の9日間、姉妹都市オーストラリア・ミッチェルを訪れ、ホームステイや学校訪問などで交流を深め、見聞を広めました。

Bean Club meets Mitchell!

2018.10.10-18



ナビゲーター
佐々木 美保
指導員

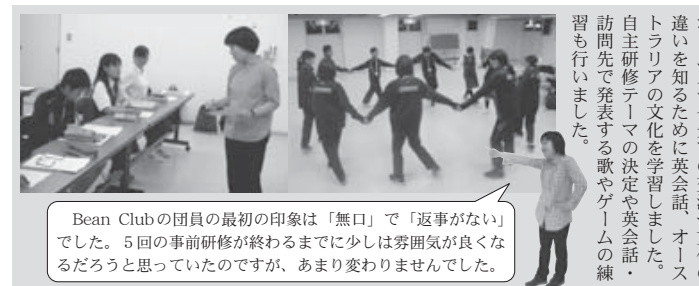
4月から町教育委員会英語教員として町内の英語活動中、大学進学後オーストラリア・トゥーロンバに4年間留学経験あり、帯広市出身。

Hi! My Name is MIHO!

今回、訪問団を引率し、ミッチェルとの友好関係は本別町の財産であると実感しました！
Bean Clubの10人とともに過ごした9日間は、楽しい思い出やハプニングなどもありましたが、それらを共有し、乗り越えた先に生まれた結束を感じました。これから10人の体験の様子をお伝えします。

びーん

町教育委員会では、町内の中学生と本別高校生を対象に、諸外国の人々の生活や文化を理解し豊かな国際感覚を育むなど国際理解教育の推進や、本別の学びの主軸に位置付けている英語教育のさらなる充実を図ることを目的として、平成4年から国際交流派遣事業を行い、現在は隔年で実施しています。



Bean Clubの団員の最初の印象は「無口」「返事がない」でした。5回の事前研修が終わるまでに少しは雰囲気は良くなるだろうと思っていたのですが、あまり変わりませんでした。

事前研修（8～10月）
出発前、全5回の事前研修を実施。より充実した研修になるよう、ホームステイ先での交流や文化の違いを知るために英会話、オーストラリアの文化を学習しました。自主研修テーマの決定や英会話・訪問先で発表する歌やゲームの練習も行いました。

10月10日（水）
出発式、本別町発
成田空港発

行つてさーい
出発式



行つてさーい

10月11日（木）



メルボルン到着

ウェルカムパーティー

初めてのホームステイ。
みんな緊張しながら自己紹介していました。

メルボルン空港着
ミッチェル着
ウェルカムパーティー
ホームステイスタート（～15日）

10月12日（金）



動物救助センター

キルモアインターナショナルスクール訪問

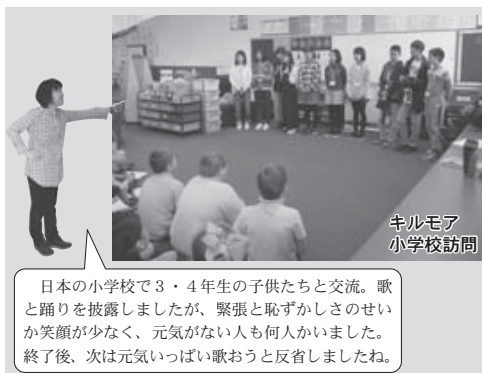
キルモアインターナショナルスクール訪問
動物救助センター見学

びーんメモ

2009年、ビクトリア州を中心に同時多発した大規模な森林火災により、ミッチェルは甚大な被害を受けました。本別町は、町民から寄せられた義援金を、また、交流事業で訪問した中高生が被災者を励ます寄せ書きを届けています。被災地には「ワンダン森林火災記念公園」が建設され、2011年に訪問した開町110年・姉妹提携20周年記念答礼訪問団が記念植樹を実施。同公園を見学したBean Clubの10人は、記念植樹の木や記念碑を見学し、お互いの絆の深さを学びました。



記念碑



キルモア小学校訪問

日本の小学校で3・4年生の子供たちと交流。歌と踊りを披露しましたが、緊張と恥ずかしさのせいか笑顔が少なく、元気がない人も何人かいました。終了後、次は元気いっぱい歌おうと反省しましたね。

5日間のホームステイでは、「英語を生で聞けた」「食べ物や文化の違いを知った」「積極的に行動したい」「日々の生活に生かしたい」など、ホストファミリーと過ごした時間は貴重な体験となっており、両市町のさらなる親善のため交流を深めました。

10月13日（土）～14日（日）ホストファミリーと自由行動①

Part 1 訪問団員からの感想

素敵な出会いと経験
古山明日香 さん（本別高校2年）

オーストラリアに滞在した7日間は、現地の皆さんのおかげで毎日が充実しました。生活は全て英語で、聞き取れなかったり伝えられなかったりしました。しかし、お互いの第一言語が異なっても、通じ合うことができました。これからも学習を積み重ね、成長した自分で再度海外へ行けるよう頑張ります。

幸せだった毎日に感謝
川崎育愛 さん（本別高校2年）

ホストファミリーのディモック・バプワース一家は、初対面のウェルカムパーティーから私のことを温かく家族のように接していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。子供たちは毎日、庭にある大きなトランポリンで遊んだりして妹や弟が増えたようでうれしかったです。

10月15日(月)
ブロードフォード中学校訪問
ミッチェル市役所訪問
お別れの夕食会



厳格で静かな会場の雰囲気の中、一人ひとりが英語で自己紹介をし、「365日の紙飛行機」などを歌いました。大人でも緊張する場面でしたが、練習以上に大きな声で、自信を持ってはきはきと自己紹介し、堂々と歌うことができました。



現地の13歳から18歳の日本語を勉強している生徒10人と交流、英語を使って交流することを提案してくれた日本語教師ステファニーさんによる授業の中で、リスニングの穴埋め問題をやってみたり、「森のくまさん」を本別の生徒たちが教えました。

ホームステイ体験を通して、言語も異なる知らない人の家で過ごせたことや、つながりを持つことができたことで、子供たちは自らの成長を実感しました。また、実際に英語を使って生活したことで、自分の夢が広がったと話す生徒もいました。お別れ会ではホストファミリーからのリクエストにより全員で「森のくまさん」を披露。緊張感がすっかり解けたこともあり、のびのびと元気いっぱい、笑顔いっぱいに歌いました。

10月16日(火)
ミッチェル発
メルボルン空港発
シドニー着

訪問団を引率して、ミッチェルの姉妹都市委員会とホームステイを受け入れてくれた皆さんの「相手を思う気持ち」と「温かさ」を感じる貴重な機会となりました。滞在中、ミッチェルそしてオーストラリアを十分楽しんでもらいたいという心遣いを感じることができ、私自身非常に居心地の良いミッチェルでの5日間でした。姉妹都市ミッチェルの温かさに触れることができたのもひとえに26年間の本別町の努力と基礎があったとのことだと実感しました。

10月17日(水)
シドニー市内を研修
シドニー空港発

10月18日(木)
羽田空港着
帯広空港着
本別着(帰町式)

ただいま〜

ミッチェルとのさらなる交流を！
団長 久保良一 (町教育委員会教育次長)

今回で第19次を迎えたオーストラリア・ミッチェルとの国際交流研修の訪問団員を町内各中学校、高校に募集を行ったところ、10人の枠に対し20人もの応募をいただきました。訪問団員の選考にあたっては大変苦慮しましたが、今回参加することができなかつた生徒の分もしっかりと交流を行ってくださることを団員もども肝に命じ参加をしてきました。

今回の訪問団員は、2人の本別高校生と8人の本別・勇足中学校生、教育委員会の佐々木美保指導員、ツアーコンダクターの住吉沙知添菜と私の13人のメンバーでありましたが、団員たちは5泊6日間のホームステイを通してオーストラリアの文化や生活を肌で感じ、ホストファミリーとも交流を深め、大変有意義な研修となりました。この貴重な体験は、ミッチェル姉妹都市協会のクリス・リサ夫妻を中心に、ホストファミリーの皆さんの心温まるおもてなしによるもので、心から感謝しています。本研修における私の責務は、団員たちが異国の文化、生活を直接に肌で感じ、数多くの体験を通して自己の見聞を広げ無事に帰町することでした。団員たちは、英語に多少苦慮しつつも、日を迫つことにホストファミリーに溶け込み、この研修の素晴らしいと国際理解教育の必要性を確信しました。


この訪問で大変お世話になった皆さんに感謝申し上げますとともに、参加された団員のさらなる飛躍を期待しています。

ひんぽ
マイクさん



2018年9月~11月まで国際交流員として来町していたマイケル・フィリップスさん(通称マイク、姉妹都市委員会会長)には、今回の訪問団のホームステイ受け入れ先のあっせんや各学校訪問など研修がよりよいものになるようコーディネートをしていただきました。

初めての海外
府川 慧哉 さん (本別中学校3年)



今回初めて海外の人とともに過ごし交流しました。日本とは違う文化があったり、英会話が長文過ぎたり、不安ばかりでした。でも、ホストファミリーの皆さんがとても優しく、わかりやすい英語を話してくれて、とても助かりました。おかげで、少しずつ話している内容を理解できるようになりました。


オーストラリアの思い出
菅野 彩華 さん (本別中学校2年)



ホストファミリーと過ごした時間は思い出です。最初は英語が通じるか不安でしたが、簡単な英語を使ったりして、楽しく過ごすことができました。日本語を教えたり、カンガルーを探したり、とても楽しい5日間でした。機会があればもう一度オーストラリアに行きたいです。

ホストファミリーと
自由行動②
Part 2
訪問団員からの感想

心に残った思い出
石垣 彩花 さん (本別中学校2年)




私の一番の思い出は、ホームステイです。最初は、英語が通じるか心配でしたが、楽しく、いつもより早く時間が過ぎていくように感じました。いろんな所に連れていってくれましたが、その中でもピーチはすごくきれいで、貝をたくさん拾ったりしてとても楽しい時間でした。

ホストファミリーとの思い出
廣瀬 乃愛 さん (本別中学校2年)




最初は会話が上手できず、思っていることを伝えることができなくて不安になることもありましたが、ホストファミリーのシングさんが私を家族のように接してくれ、不安を楽しくさに変えてくれました。シングファミリーは、たくさん思い出を与我えてくれました。離れていてもシングファミリーといつまでも交流をしていきたいです。

初海外
吉田 遥 さん (勇足中学校2年)



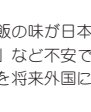
私は小さい頃から海外に行くのが夢でした。ミッチェルはとてもいい町で、町中を案内してくれたり、おやつやおみやげをくれたり、みんなとても優しく接してくれました。ホストファミリーの皆さんも、いろんな所に毎日連れて行ってくれました。またホストファミリーに会いたいです。

忘れられない貴重な経験
河野 太希 さん (勇足中学校2年)



僕が一番思い出に残ったのは、ホームステイです。外国のマナーを学んだことや、ご飯の味が日本とは異なることが忘れられません。会話では、最初は「僕の言うことが通じるだろうか」など不安でしたが、質問されたことに対して単語でも通じるということがわかりました。この経験を将来外国に行ったときに、生かしたいと思います。

一生の宝物の思い出
西村 真優 さん (本別中学校2年)



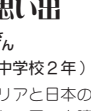
私は、オーストラリアと日本の文化の違いとそれぞれの国の素晴らしさを学びました。苦手だった英語の「話す・聞く」も少しできるようになりました。この研修で得た思い出は、ずっと宝物であり財産です。出会えたたくさんの人に感謝しています。これからはもっと英語を勉強し、もう一度オーストラリアに行きたいです。

素晴らしい思い出をありがとう
塚原 太郎 さん (本別中学校2年)



僕はミッチェルで、ホストファミリーと水族館に行ったり、一緒にサッカーをしたりしました。最初は少し恥ずかしかったけど、自然と仲良くなれました。英語がうまくなるまで、聞き取れなかったことが多くありましたが、とても楽しい思い出を作ることができました。英語をもっと勉強して、またオーストラリアに行きたいです。

一生の宝物の思い出
西村 真優 さん (本別中学校2年)



私は、オーストラリアと日本の文化の違いとそれぞれの国の素晴らしさを学びました。苦手だった英語の「話す・聞く」も少しできるようになりました。この研修で得た思い出は、ずっと宝物であり財産です。出会えたたくさんの人に感謝しています。これからはもっと英語を勉強し、もう一度オーストラリアに行きたいです。

本別消費者協会の活動

本別消費者協会は、現在71個人と1団体で組織され、町内の消費者へ正しい知識の普及や消費生活の安定と向上を目的に活動しています。

現在、町内のイベントでの啓発活動をはじめ、「商品量目試買調査」や「消費生活モニター価格調査」、「灯油・ガソリン・LPガスの価格調査」など消費者を守るための調査や、日常に役立つ情報の発信など、消費に関するさまざまな活動を行っています。

会員を募集しています！

消費者協会では、地場産品の料理講習会や、消費者目線に立った研修会・交流会などを通じ、会員の親睦を深め、安全・安心の消費生活、豊かな生活を送ることができるように活動しています。堅苦しく難しいと思われがちですが、和気あいあいとした雰囲気で開催しておりますので、皆さんお誘い合わせの上、ぜひご加入ください。

困ったときの身近な相談窓口

普段の心構えや正しい対処法によって、被害を未然に防ぐことが最も有効ですが、万が一、周りに相談できる人がいない場合があるかもしれません。そういったときは、すぐに役場の相談窓口や警察署などの機関に相談してください。なお、相談内容などの情報は、厳重に守られますので安心してください。

● 本別消費者協会 ☎ 22-8121

随時、事務局にて相談を受け付けます。(平日の午前8時30分～午後5時15分)
必要に応じて、専門の相談員等におつなぎ致します。
(事務局：役場企画振興課 商工観光・元気まち担当)

● 本別警察署生活安全係 ☎ 22-0110

● 消費者ホットライン(消費者庁) ☎ 188 (いやや!)



こんなハガキには要注意!! ～ 架空請求詐欺～

※このハガキは実際に送られてきたものです

**消費料金に関する
訴訟最終告知のお知らせ**

この度、ご通知致したのは、貴方の利用されていた契約会社、もしくは運営会社側から契約不履行による民事訴訟として、訴状が提出されました事をご通知致します。

管理番号(わ)247 裁判取り下げ最終期日を経て訴訟を開始させていただきます。

尚、このままご連絡なき場合は、原告側の主張が全面的に受理され、執行官立会いの下、給与差し押さえ及び不動産、不動産の差し押さえを強制的に執行させていただきますので、裁判所執行官による執行証書の交付をご承諾いただきますようお願い致します。

裁判取り下げなどのご相談に関しましては、当局にて承っておりますので、お気軽にお問合わせ下さい。尚、書面での通達となりますので、プライバシー保護の為、ご本人様からご連絡いただきます様、お願い申し上げます。

※取り下げ最終期日 平成30年11月1日

法務省管轄支局 訴訟最終告知通達センター
東京都千代田区霞が関2丁目6番1号
取り下げ等のお問い合わせ窓口 03-6809-
受付時間 9:00～20:00(日、祝日を除く)

身に覚えのないハガキが届いたけど...どうしよう!



ハガキに書いてあるし、早く電話しないと...



～ 消費者協会からのお知らせ～

本別消費者協会
渡辺紘生会長



そのハガキは詐欺。連絡してはダメ!一度でも連絡すると、言葉巧みにお金を支払われれます。実はそのような名称を語り、消費者を騙そうとしています。さらに「連絡しないと法的措置を取る」といって消費者を不安にさせるなど、詐欺業者はさまざまな方法でお金を支払わせようとしています。

そうだったんだ～。危なく詐欺に遭うところだった。連絡しなくてよかった。

全国の消費生活センターで架空請求に関する相談が増えています。その中でも「未納料金を支払わない」と訴訟手続きをする」と書かれたハガキによる相談が急増しています。心当たりのないハガキやメール、SMS(ショートメッセージサービス)等で未納料金を請求されても、決して相手に連絡してはいけません!



問い合わせ
本別消費者協会事務局
役場企画振興課 商工観光・元気まち担当
☎22-8121

平成29年度版

わがマチ マイタウン本別

のだいどころ

このように使われました！

平成29年度の各会計の決算状況がまとまりました。皆さんから納めて頂いた大切な税金や国・道からのお金などが、どのように入ってきて（歳入）、どのように使われたか（歳出）、また、今の本別町には財産や預金、借入金がどれくらいあるのかを、表や豆グラフを使ってできるだけわかりやすくお知らせしたいと思います。

一般会計の決算状況

保元くん！
お金の出入り
を豆グラフで
チェックして
みましょう！

依存財源：国や道の決定や割り当てに基づいて入ってくるお金のことです。地方交付税や国庫支出金・道支出金のほか、地方譲与税、各種交付金、また、地方債（町債）もこれに該当します。
自主財源：町税など皆さんに納めていただくお金のことです。他に分担金および負担金、使用料および手数料、寄付金、繰越金等があります。財政の自主性と安定性を確保する上では、自主財源の割合ができるだけ高いことが望ましいです。

- 民生費** 11億144万円
1人当たり 15万6,188円 **14.9%**
児童や高齢者福祉の推進、社会福祉充実のために使われるお金です
- 土木費** 9億4,772万円
1人当たり 13万4,390円 **12.8%**
道路の改良や維持、公営住宅の建設や管理などに使われるお金です
- 衛生費** 9億3,581万円
1人当たり 13万2,701円 **12.7%**
保健事業やゴミ処理など、健康と衛生的な環境を維持するために使われるお金です
- 農林水産業費** 7億3,499万円
1人当たり 10万4,224円 **9.9%**
農業・林業の発展のために使われるお金で、農林道の整備、農業用施設・機械購入などに使われるお金です
- 公債費** 6億7,953万円
1人当たり 9万6,360円 **9.2%**
事業を行うために借入れたお金の返済に使われるお金です
- 総務費** 6億2,226万円
1人当たり 8万8,239円 **8.4%**
町の企画や防災、造成、選挙、庁舎の維持管理、放送・通信の整備などに使われるお金です
- 教育費** 6億2,193万円
1人当たり 8万8,192円 **8.4%**
小学校・中学校での教育や社会教育（学校教育以外の教育）などに使われるお金です
- 商工費** 2億8,631万円
1人当たり 4万6,000円 **3.9%**
商工業の発展・振興などに使われるお金です
- 消防費** 2億2,131万円
1人当たり 3万1,383円 **3.0%**
火災の予防活動や火災現場での消火活動、人命救助や傷病者の救急搬送等、消防活動に使われるお金です
- その他** 9,901万円
1人当たり 1万4,040円 **1.3%**
議会の運営、勤労者対策、災害復旧などに使われるお金です
- 職員費** 11億4,167万円
1人当たり 16万1,893円 **15.5%**
職員の給料などに使われるお金です

歳出
総額 **73億9,198万円**
町民1人当たり 104万8,210円

歳入
総額 **75億391万円**
町民1人当たり 106万4,083円

町民1人当たりは、平成30年3月末人口7,052人で算出しております。

豆のまちほんべつだから
【豆さやグラフ】

- 39.9%** 地方交付税 29億9,483万円
1人当たり 42万4,678円
11ページに掲載しています
- 17.6%** 国・道支出金 13億2,064万円
1人当たり 18万7,272円
国や道から入ってくる使い道の決まっているお金です
- 13.0%** 町債 9億7,088万円
1人当たり 13万7,674円
町が事業を行うために借り入れたお金で、いわゆる借金のことで
- 1.9%** 地方譲与税 1億4,147万円
1人当たり 2万61円
自動車重量税など、徴収の利便性から一旦国税として徴収された後、市町村に一定の基準により譲与される税です
- 2.5%** その他 1億8,909万円
1人当たり 2万6,814円
交通安全対策特別交付金や地方消費税交付金など、国や道から交付されるお金です
- 12.3%** 町税 9億2,422万円
1人当たり 13万1,058円
町民の皆さんに納めて頂いた税金のうち、直接、町に入る税金で、町民税・固定資産税などです
- 4.0%** 繰入金 3億158万円
1人当たり 4万2,765円
貯金（基金）を取り崩したお金です
- 3.4%** 諸収入 2億5,008万円
1人当たり 3万5,462円
貸付金元利収入や介護保険収入、貯金利子などのお金です
- 1.8%** 寄付金および財産収入 1億3,697万円
1人当たり 1万9,423円
町民の皆さんから頂いた寄付金や、財産運用（土地の貸し付けなど）などによるお金です
- 1.7%** 使用料および手数料 1億2,780万円
1人当たり 1万8,123円
公共施設の使用料や役場で発行する証明書類の発行手数料などです
- 1.5%** 繰越金 1億1,389万円
1人当たり 1万6,150円
前年度に残ったお金です
- 0.4%** 分担金および負担金 3,246万円
1人当たり 4,603円
農家の人が納める土地改良などの受益者分担金、老人ホーム入所負担金や保育料などです
- 25.1%** 自主財源 18億8,700万円
- 74.9%** 依存財源 56億1,691万円

地方交付税

地方交付税は、国から交付される町の大きな収入源となっています

地方交付税は、法に基づき交付されるものです。うち普通交付税が、右のトラ豆グラフの通り町の重要な収入になっています。

- さて、普通交付税がどのように計算されるかという、
 - 全国的に標準となる町のモデルを作る
 - このモデルの必要な経費を計算する
 - 本町分は、このモデルの経費を補正して計算する
 - 算出された経費総額から本町の収入を差し引く
- このように計算したものが、町の普通交付税収入です。

地方交付税には2種類あります

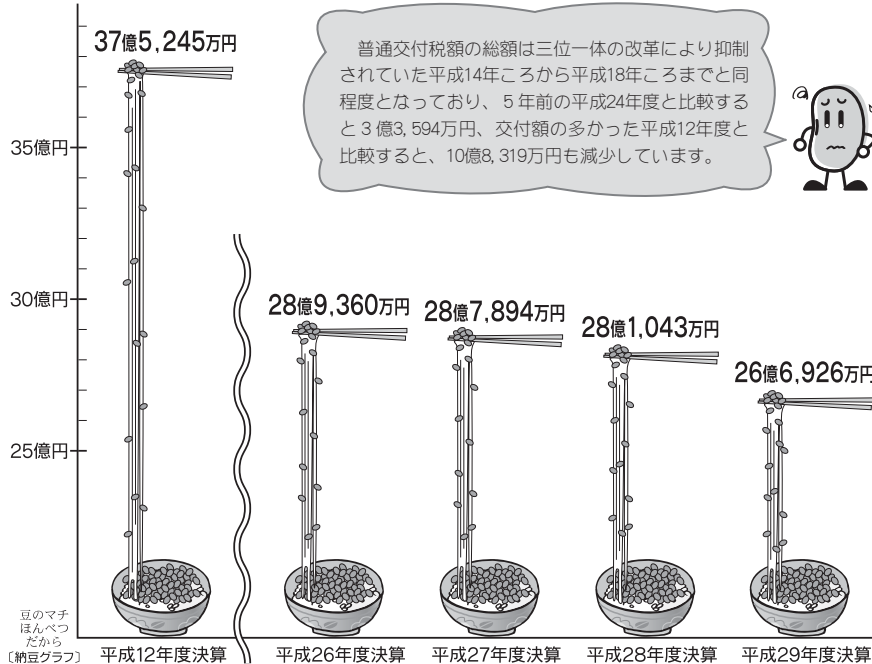
地方交付税には、普通交付税と、特別交付税があります。大きなものが普通交付税で、特別交付税は、災害があった時など特殊な事情に対して交付されます。

国の財政事情や政策が普通交付税に反映

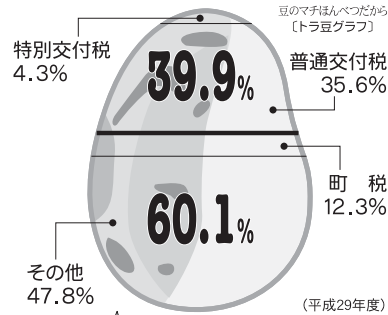
普通交付税は、国税（所得税・酒税・法人税・消費税・たばこ税）収入の一定割合により交付されますが、景気の落ち込みによる税収不足により、国債の発行など、その他の財源も使って交付されています。従って、国の財政事情や政策が普通交付税交付額に大きく反映されます。

どのように普通交付税が推移してきたかは、下の納豆グラフの通りです。

普通交付税の推移



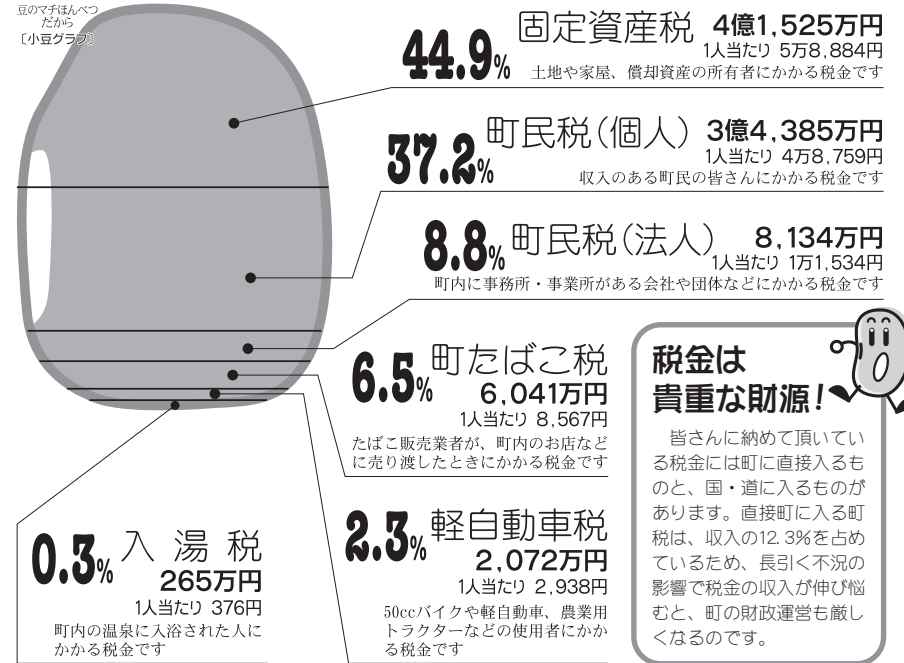
歳入に占める地方交付税



本別町の財政が厳しくなっている原因は、この普通交付税が大幅に減額されてきたことによるものです。

町税の内訳

総額 9億2,422万円
町民1人当たり 13万1,058円



税金は貴重な財源!

皆さんに納めて頂いている税金には町に直接入るものと、国・道に入るものがあります。直接町に入る町税は、収入の12.3%を占めているため、長引く不況の影響で税金の収入が伸び悩むと、町の財政運営も厳しくなるのです。

一般会計の財産および預金等の状況

町にも預金があるんです

町も皆さんの家庭と同じように、余裕のあるときには預金を積み立てて、大きな事業を行うときにやりくりが苦しくならないようにしています。

財産の状況

公有財産 土地	1,532ha
公有財産 建物	10万 5,757㎡
山林	1,298ha
有価証券および出資金	7,485万円
車両	77台

豆蔵庫

財政調整基金：
町の財源を調整するための預金

減債基金：
借入金の返済に充てるための預金

預金(基金)等の状況

基金等の種別および目的		平成29年度末現在高
積立基金	財政調整基金	14億3,569万円
	減債基金	5億8,486万円
	福祉の充実	3億465万円
	産業の振興	2億3,089万円
	教育・文化・スポーツの振興	1億3,469万円
定額運用基金	その他	7億5,351万円
	土地開発	2億1,037万円
その他		8,284万円
合計		37億3,750万円

平成29年度主な事業 ～一般会計分～



地域資源を生かした
豊かなまちづくり

環境保全型農業直接支援対策事業	事業費 1,545万円
国・道補助金 75.0%	一般財源 25.0%
町有林造林事業	事業費 1,836万円
補助金 53.6%	企業助成金 4.3%
	一般財源 42.1%

快適でやさしさのある
まちづくり



空き家住宅等除却支援事業	事業費 145万円
国・道補助金 50.0%	一般財源 50.0%
住宅新築・リフォーム助成事業	事業費 3,640万円
借入金 65.7%	一般財源 34.3%
栄町団地公営住宅建替事業	事業費 4,959万円
国・道補助金 49.0%	借入金 35.5%
	一般財源 15.5%

「ともに学び支えあい

「活力のあるまちづくり」を目標として

町では、まちづくりの長期計画として、第6次総合計画（平成23年度～平成32年度）を定め、分野項目に分類して各種事業を実施しています。



生涯を通じて学び
豊かな心を育むまちづくり

本別高校の教育を考える会補助金	事業費 2,433万円
借入金 37.0%	一般財源 63.0%
図書館1階トイレ改修工事	事業費 410万円
	一般財源 100.0%

ともに支えあい安心・安全に
暮らせるまちづくり



地域における生活困窮者支援等のための 共助の基盤づくり事業	事業費 687万円
国・道補助金 43.6%	一般財源 56.4%
発達支援センター運営事業（給付対象事業化）	事業費 1,191万円
国・道補助金 3.4%	給付費収入 23.2%
	一般財源 73.4%



除雪グレーダー車両購入

なぜ借入金（町債） をするの？

町で行う大きな事業には、国からの同意を受けてお金を借りるものがあります。当然その年度の収入だけでは足りないから借りるのですが、また違った意味もあるのです。皆さんが納めた税金などを使って10年、20年かけて借入金を返済していくことにより、長く使われる施設は、「使用する世代みんなで負担しよう」という意味もあるのです。

そして、返済金の一部を国が負担してくれる有利な借り入れを選択したり、以前に借りた利率の高いものを現在の利率の低いものに借り換えたりして、町の負担が少しでも小さくなるようにやり繰りをしているんですよ。

一般会計の借入額

借入金（町債）の状況

借入の目的	平成29年度借入額
道路・橋梁事業	1億4,300万円
車両購入（除雪グレーダー）	500万円
公営住宅建設	1,760万円
営農用水事業	1億2,410万円
国営土地改良事業	1億1,560万円
特定間伐等促進対策事業	770万円
医療機械器具購入	3,110万円
し尿処理施設整備	1,760万円
地方創生拠点整備	1,690万円
過疎地域自立促進特別事業	1億2,730万円
勇足小学校大規模改修	1億8,330万円
災害復旧事業	1,050万円
臨時財政対策債	1億7,118万円
合計	9億7,088万円

※臨時財政対策債とは～地方交付税の代わりとして発行される地方債で、将来は地方交付税で償還額が充当される



勇足小学校大規模改修

特別会計・企業会計の決算状況

企業会計

	歳入	歳出
国民健康保険 病院事業会計	11億3,688万円	12億4,835万円
	1億6,357万円	1億9,396万円
水道事業会計	1億7,116万円	1億6,835万円
	4,090万円	1億716万円

特別会計

	歳入	歳出
国民健康保険特別会計	14億1,171万円	13億5,248万円
後期高齢者医療特別会計	1億2,340万円	1億2,338万円
介護保険事業特別会計	10億1,526万円	9億8,318万円
介護サービス事業特別会計	2億9,114万円	2億8,747万円
簡易水道特別会計	1億3,065万円	1億2,837万円
公共下水道特別会計	4億9,910万円	4億9,559万円

会計がどうなるの？

町では事業を効率よく運営していくために、大きく3つの財布（会計）に分けています。一般会計は、町政を運営するための中心となる経理をするための財布。特別会計は特定の収入・支出を他のものと区別して経理するための財布。企業会計は、一般会計・特別会計とは全く違い、独立採算制を基本としているので、民間の会社のような会計になっています。

豆知識

一般財源：何にでも使えるお金で、例えば町税・地方交付税などです
 収益的収支：事業活動に伴い発生が予定されるすべての収益と費用のことです
 資本的収支：将来の事業活動に備えて行う建設改良および建設改良にかかる企業債借入金などの支出とその財源となる収入のことです

マチの借入金現在高（平成29年度末）

総額 121億8,752万円

町民1人当たり 172万8,236円

	内 訳	金 額	町民1人当たり	
一般会計	道路新設改良舗装	6億8,425万円	9万7,029円	
	農林道および農業基盤整備	5億5,593万円	7万8,833円	
	学校建設および改築	5億6,648万円	8万329円	
	公営住宅建設および改良	7億3,347万円	10万4,009円	
	災害復旧	5,063万円	7,179円	
	その他	16億6,951万円	23万6,743円	
	臨時財政対策債	28億276万円	39万7,442円	
	小計	70億6,303万円	100万1,564円	
	特別会計・企業会計	病院事業	9億3,063万円	13万1,967円
		簡易水道	5億9,777万円	8万4,766円
公共下水道		26億3,209万円	37万3,240円	
上水道		9億6,400万円	13万6,699円	
小計	51億2,449万円	72万6,672円		
【参考】債務負担行為（一般会計）		6億3,218万円	8万9,645円	

借入金って、あとどれくらい残っているの？

特定の収入で運営される特別会計や企業会計を除く、平成29年度末の現在高は70億6,303万円、町民1人あたり約100万円となっています。

地方交付税などの収入が大きく落ち込んでいることから、いっそうの経費節減などを実施して今後の返済計画を立てています。

※債務負担行為とは～1つの事業が単年度で終了せず、翌年度以降も支出が必要なもの



4日に開催された「芸能発表会」には、20団体1個人の123人が出演。太鼓や三味線、フルートや尺八などの演奏をはじめ、フラダンスや剣舞、ヒップホップなど、日ごろの練習の成果を存分に披露し、会場からは大きな拍手が送られました。

平成30年度スポーツ賞授賞式

平成30年度スポーツ賞授賞式が11月3日、中央公民館で開催され、功労の部にはスキーマの普及発展に尽力した佐藤正志さんと柔道の普及発展に尽力した野原光廣さん、優秀選手の部ではアーチェリー競技で優秀な成績を収めた松嶋絹花さんの、合計3人が受賞しました。

布施耕一教育長職務代理が「意欲的に活動された皆さんの努力と業績に対し限りない尊敬と感謝の念を捧げます。住みよいまちづくりのため、より一層のご尽力をお願いします」と式辞を代読した後、受賞者に賞状などを手渡しました。高橋正夫町長と高橋利勝町議会議長の祝辞に続き、受賞者を代表して野原さんが「本別町のスポーツ・文化がますます発展することを願い、この賞に恥じないよう今後も全力で活動を続けたい」とお礼の言葉を述べました。



受賞者の皆さん

謝辞を述べる野原光廣さん

受賞者に賞状を授与



日ごろの文化活動の成果を披露する平成30年度本別町文化祭（町教育委員会・町文化協会主催）が11月1日から4日まで、中央公民館で開催されました。会場では作品展示や芸能発表会などが繰り広げられ、約430人の来場者を楽しませました。



今年は作品展示が1日から3日まで、芸能発表会が4日に開かれました。3日の文化の日には、本別伝統文化継承会、千歳会の子供たちによる「お茶会」や「囲碁コーナー」が催されたほか、生け花や陶芸、絵画など、数々の個性あふれる作品が展示されました。



囲碁コーナー

お茶会でお点前を披露

町民文芸誌「沖積土」販売開始

本のまち夢づくり講演会 ～夢みるチカラ～

1枚の絵に込められた物語を読んで

本のまち夢づくり講演会（町教育委員会主催）が11月2日、町体育館において開催されました。イラストレーターで絵本作家の永田萌（ながた もえ）さんが、「夢みるチカラ」と題して講演し、数多くのイラスト作品をスクリーンで紹介したほか、自作の絵本を題材に思いを込めて朗読。会場からは絵が映し出されるたびにうっとりとしたため息がもれ、約90人の来場者は、永田さんの夢あふれる美しい世界に魅了されていました。



講師 永田 萌さん

講演の概要



作品ができるまでの工程を披露

イラストレーターという仕事

グラフィックデザイナーを経て、イラストレーターになりました。イラストとは、「目的のために、イメージを絵で可視化する」こと。40年以上、依頼を受けてポスター、切手、通帳の表紙など、さまざまなイラストを描いてきました。よく使う画材はカラーインク。鮮やかな発色が特長ですが、扱い方がとても難しいです。師匠である、故やなせたかしさんが私を「カラーインクの魔術師」と呼んでくださいました。これは私の誇り。絵で伝える「物語」を大切にして、生涯イラストレーターであり続けたいと思っています。

絵本作家として

絵本の仕事も数多くあります。絵と文の両方を書く絵本作家、他の作家が書いた文に挿絵を描く挿絵画家、どちらもしていますが、それぞれに楽しさがあり、大好きな仕事です。まずは本別町からリクエストされた「さくらいろのハンカチ」を朗読します。この作品は、東京大空襲で戦災孤児になられた海老名香葉子さんのお話に、泣きながら絵を描きました。戦争の悲惨さや家族を失う悲しさを、夢を持つて乗り越えたから今の幸せがある。香葉子さんの平和への大事なメッセージを伝えたいと思います。



スクリーンに映しながら絵本の朗読



萌先生からステキなサインをもらいました。宝物になります！

次は「クリコさんと笑わないクマ」を読みます。これはお話も絵も自分で書きました。クマのぬいぐるみの物語を、現在34歳の息が子ども頃に話した言葉を使って、とても楽しく書いた作品です。画材はアクリル絵の具を使いました。私のアトリエがある小樽の風景を描いたページもありますが、今日の美しい十勝の夕暮れも、いつか描けたらうれしいです。

絵本作家と挿絵画家、どちらが好きかと問われたら、私は挿絵の方が好きです。想像力を広げて、世界中の作者の文に寄り添う喜びがありますから。

住まいのセミナー

本別町居住支援協議会（鹿島豊隆会長）と十勝東北部3町が主催する住まいのセミナーが10月19日、中央公民館で開催されました。今年で3回目となるセミナーには、町内外から約80人が参加しました。

「住まい」と向き合い、地域のこれからを考える



あいさつをする鹿島会長

主催者を代表して鹿島会長が、「今、地方の町村では高齢化や過疎化が進み、景観・治安・災害の面から、空き家が大きな社会問題となっています。今住んでいる住宅や現在の空き家について考え、将来の空き家にならないよう、このセミナーを通して理解を深めていただきたい」とあいさつしました。

同セミナーは、報告と座談会形式で構成され、はじめに、町総合ケアセンターの木南孝幸所長補佐が、3町の空き家の現状・管理などについて報告しました。座談会では、「耐震」「解体」「リフォーム」をテーマに5人が登壇。町居住支援協議会オプザバーのNIC（東京）代表の細川慶隆氏が、2016年に起きた熊本地震から学ぶ住宅耐震の必要性について発表しました（概要を下段に記載）。また、小川建設工業の高野広明営業部長が、解体作業の流れやゴミ・家財道



「住まいのこれからを考える」を議題に座談会が行われました

具の処分、解体後の減価償却などを説明し、町建設水道課の梅津弘司主査は補助金を活用した解体事例を紹介。鹿島会長からは、空き家リフォームの施工事例をビデオ・アフォーでわかりやすく解説しました。

発表後、全国住宅産業協会や道建築指導課、3町の担当者らによって、「住まいのこれからを考える」をテーマに討論が行われ、「空き家の活用には、町外からの移住・定住対策と、地域で住まいを必要とする人向けの対策、この両輪が必要」などの意見が出されました。セミナー終了後、同会場では、個別の相談も行われました。



NIC代表 細川慶隆氏

耐震の必要性、今すぐにもできることは

「耐震」という言葉をご存知ですか？耐震には新旧の基準があり、旧耐震では昭和56年6月1日以前の建築物かつ震度5で倒壊しない、新耐震では同日以降の建築物かつ震度7で倒壊しないとされています。旧耐震では震度7クラスの大地震には対応していません。

2016年に発生した熊本地震では、震度7が2回起こりました。1回目の地震で被災した建物にそのまま住んでいて、2回目の地震で倒壊したため亡くなった人もいます。建築基準法では、震度7が2回起こることは想定していません。耐震とは大地震の場合、硬い部分を壊し、力を逃がして建物の倒壊を防ぐこと。震

座談会「熊本地震から学ぶ住宅耐震の必要性」概要

度7が起こっても住み続けられるのではなく、生命と財産を一番に考え、地震が起こったら逃げられる時間を作るといったことなのです。

この先、本別で大きな地震が起こるのかはわかりませんが、備えて「耐震化」は必要です。家全体を耐震化できなくても、減災を図るために寝室だけは筋交いで補強するなどの「部分耐震」、それより難しい鉄骨製フレームによる「ベッド保護」など検討しましょう。部屋の壁にきつちりとたんすを固定するだけで、天井がぶれることを防ぐ。今回の胆振東部地震を経験され、非常食や電池の準備をされた人がいると思います。同じ発想で、まずは、過ごす時間の長い場所を補強してみませんか。

また、改修する場合、自分の家がどの程度の耐震が必要か、状態を把握する方法として耐震診断があります。「耐震診断」は、建物「健康診断」です。診断にはお金がかかりますが、町でも耐震に関する助成制度があります。家の健康状態を知って、安全な暮らしを守りましょう。

12月3日～9日は
障がい者週間

このイベントは、障がい者福祉についての関心と理解を深めることを目的に企画しました。子どもから大人まで誰もが楽しめるプログラムとなっておりますので、多くの皆様のご来場をお待ちしています。

プログラム

午前10時 開会式、加盟団体等による展示・出店

午前10時20分 講演
「障がいがあっても暮らせるまちづくりとは」

正午 バザー

午後1時30分 映画上映「真白の恋」

午後3時30分 映画上映「真白の恋」

平成30年度 障がい者週間記念事業

とき 12月8日(土) 午前10時～

ところ 中央公民館
主催 チャレンジド・ネットワークほんべつ

◆ 講演「障がいがあっても暮らせるまちづくりとは」

障がいがある人もない人も同じ地域に暮らしています。障がい者と携わる人など、いろいろな人のお話を聞いて、あなたの身近にある「障がい」について一緒に考えてみませんか。

発表者：本別町健康長寿のまちづくり協議会 会長 井出 壬午
NPO法人ほんべつつつじの園 施設長 新津 和也
そらの会 事務局長 井出 直美

◆ 映画上映「真白の恋」

(本別町手をつなぐ親の会主催)

～あらすじ～
渋谷真白は、家族とともに富山で暮らしている。真白にはごく軽度の知的障害がある。ある日、兄の結婚式で神社に訪れた真白は東京からやってきたフリーカメラマンと出会い、彼に恋心を抱く…。

◆ 展示・販売

各団体等の活動状況を写真やポスターなどでの展示や、各事業所の手作りの作品や農作物、軽食などを販売します。

◆ バザー
カレーライス 200円

託児所を設けています
お子さんと一緒にご来場ください！

問い合わせ チャレンジド・ネットワーク ☎ 22-8320
(事務局：本別町社会福祉協議会)

平成30年度 福祉でまちづくり宣言記念事業



防災ゲーム「クロスロード」に挑戦する参加者



登別市社会福祉協議会 坂本大輔 係長

平常時の取り組みが災害時に活かせる、
共助のまちづくりへ

平成30年度福祉でまちづくり宣言記念事業(本別町健康長寿のまちづくり会議主催)が11月9日、「これからの『防災』を考える」をテーマに中央公民館で開催されました。

「地域全体で取り組む福祉について、この事業を通じて視野を広めながら、皆さんで考えていきたいと思います」と井出会長が主催者を代表してあいさつし、続いて参加者160人が「福祉でまちづくり宣言文」を朗読しました。

今回の事業は3部構成で開催され、第1部では、町総合ケアセンター木南孝幸所長補佐が災害時要援護者の避難支援について報告。災害時に支援を必要とする人も少なく把握し、緊急連絡先やかかりつけ医師等の情報を、民生児童委員や自治会と情報共有を図る取り組みについて紹介しました。

続いて第2部では、登別市社会福祉協議会の坂本大輔係長が「大規模停電を経験しての共助の取り組み」をテーマに講演。平成24年11月に同市を襲った暴風雪による大規模停電を振り返り、「住民による自主的な活動や近隣からの声掛けがなされた一方で、町内会としての要支援者の把握が十分ではなかった」との課題が見えた」と紹介しました。登別市ではその後、地域の福祉活動が見直され、住民自らが課題を考えることで、地域活動や福祉の意識高揚につながったとし、坂本係長は「災害時だから特別できることはなく、平常時から地域住民がつながりづくりを大切にすることで、災害に強いまちづくりにつながります」と語りました。

第3部では、参加者がカードゲーム形式の防災ゲーム「クロスロード」に挑戦しました。これは、災害対応に関する想定外の問題について、「Yes」と「No」が書かれたカードで素早く意思表示をし、その理由を話し合うことで幅広い価値観を学ぶことができるというもの。20グループに分かれた参加者は、どちらを選択しても正解でもあり、間違いでもない問題に向き合いながら、災害時には瞬時に判断し決断しなければならぬ状況を体験し、話し合いを通してそれぞれの価値観や考えを共有しました。

あなたは、
避難所の運営担当者です。

避難所には100人が避難できています。やっとのことで避難所におにぎり60個届きました。あなたは、おにぎりを配りますか？

あなたは、
町民です。

大きな地震のため、避難所に避難しなければなりません。家族同然の飼犬「モモちゃん」(メス、3歳)がいます。あなたは一緒に避難所に連れて行きますか？

左は実際に会場で出題された防災ゲーム「クロスロード」の問題。あなたは「Yes」または「No」どちらを選択しますか？

〜住み慣れた地域で暮らし続けるために〜

地域包括ケアプロジェクト

Vol. 2

町ではこれからの地域福祉を見つめ直し構築するため、平成29年から「地域包括ケア」に取り組んでいます。シリーズ2回目は、町国民健康保険病院「地域連携室」について、取り組みをお知らせします。

一般的に高齢になると病気がかりやすく、病院に入院することが多くなります。また、運動機能や認知機能が低下し始めるため、介護サービスを利用する人も増えてきます。つまり、ひとりの人が医療と介護、両方のサービスを受けるようになることから、両者がより良いサービス提供を行うための連携づくりが重要であることを前回の記事でお伝えしました。

地域連携室開設から2カ月

平成29年に実施した「介護予防・日常生活圏ニーズ調査」では、『特に力を入れてほしい高齢者施策』の1位に「医療体制・訪問診療の充実」が挙げられています。

町国民健康保険病院（以下、国保病院）では、患者さんの意向に沿った医療や介護のサービス利用を支援するため、10月1日に「地域連携室」を開設しました。病院を利用した患者さんが「診療」という医療のサービスだけでなく、介護や福祉のサービスが必要な場合に、地域連携室がそれらのサービスへとつなげて（連携）いきます。地域連携室の開設以降、町内外の医療機関や介護・福祉サービス事業者から、サービス利用者（患者）さんについての相談・情報提供が寄せられ退院支援へとつながってきています。今後さらに連携を進めていくために、関係者ももちろん、町民の皆さんにも地域連携室を知ってもらい小さなことでも相談のできる窓口を目指していきます。

地域連携室を核に よりよいサービスを

町内の医療・介護・福祉・保健の各専門家など約60人が集まり、多職種連携を学ぶ研修会が11月1日、長野県・諏訪中央病院の在宅ケアセンター副センター長の奥知久医師を講師に迎え、総合ケアセンターで行われました。奥医師は、「連携することは目的ではなく手段。目的は町民にとって最良の医療・介護・福祉・保険サービスを提供すること」とし、「他の医療機関や施設との連携は担当者の顔も見えず難しい。『地域連携室』があることで外部からの窓口が図られます」と述べ、地域連携室の働きを強調しました。

研修会の参加者は「連携」の必要性を学ぶとともに、一人ひとりの利用者患者さんがスムーズにサービス利用に移行するために地域連携室の役割が大き



多職種連携を学ぶ研修会（11月1日）

ここに相談したいの
だも...
誰に相談したらいいの
だ...
医療や介護で困りことは
ありませんか？
小さな悩みでもお伺いし
ますので、気軽に地域連携
室までご連絡ください！

● 地域連携室に関すること ●
国民健康保険病院
☎ 22-2025

地域包括ケアに関すること
総合ケアセンター ☎ 22-8520
問い合わせ



戦後の復興から第一次ベビーブームを経て、高度経済成長の波に乗り、本別町は飛躍的な躍進を見せました。復興や引揚者、戦後開拓などによる人口増加、農林業とそれに密接した工業の発展が、要因と考えられます。

町の工業の歴史は、開拓間もない明治末期、マッチの軸木製造に始まり、その後、木材業、鉄工業、亜麻を中心とする繊維工業などが盛んに行われていました。商業、流通業、建設業などと関わりながら、地域性を生かし、時代とともに移り変わってきました。

「歴史写真館@ほんべつ」9回目は、昭和30年代からの産業振興の中心となった工業にスポットを当て、二つの工場

昭和37年 まちの発展を支える 大工場の進出



① 大日本製糖本別製糖所（昭和37年撮影／歴史民俗資料館所蔵）

「本別町のいちばん多い時の人口は、どれくらいあったのですか？」歴史民俗資料館では、よくこのような質問を受けます。正解は1万8858人。昭和34（1959）年6月の住民登録者数です。戦後の開拓地に新設校が相次ぎ、同年の町勢要覧によると、小中合わせて26校（分校含む）、本別高校も17学級（定時制含む）があり、飲食店や娯楽施設も多く、十勝管内で幅広く次ぐにぎわいを誇っていました。しかし、昭和35（1960）年に始まった『所得倍増政策』による本州への労働力の流出などから、本町も過疎化の道へと進みます。

その状況下、長年の誘致運動が実り、同36（1961）年勇足地区に大日本製糖株式会社本別製糖所（写真①）が建設され、開基60周年を迎えた本別町は、喜びに湧きました。翌（1962）年11月操業開始。同年、製糖所に隣接して、国鉄池北線に「南本別駅」が新設され、関係者などの乗降に利用されました。同43（1968）年からは、現在の北海道糖業株式会社本別製糖所（以下、北糖）として営業。製糖期の白煙や朝の樹水は、今も町の冬の風物詩となっています。



③ 歴史民俗資料館常設展示「工業の発達」コーナー

畑作と関係が深い北糖に対し、酪農と密接なのが、明治乳業株式会社本別工場です。活発な誘致運動により同45（1970）年に新設が認可され、町内では祝賀の垂れ幕やモニュメント（写真②）が掲げられました。同47（1972）年、新町で操業を開始し、原料粉乳とバターを製造。現在は株式会社明治本別工場として、町内外から生乳を受け入れ、クリーン・濃縮乳などを製造しています。これらの工場は、当時の町民の熱意ある活動が実を結んだ成果で、今なお地場産業と結びつき、地域経済をけん引しています。時代の変化でどの産業も厳しい状況にありますが、それらが本別町になくてはならない大切な仕事。人びとの営みが歴史を作る。残された資料がそれを語ってくれます（写真③）。

② 明治乳業本別工場新設決定を祝う
本別駅前（昭和45年撮影）



お問い合わせ
歴史民俗資料館
☎ 22-21411 内410
図書館 ☎ 22-5112

HELLO 勇足小学校

学校教育目標

- ◇よく考える子
- ◇思いやりのある子
- ◇ねばり強い子
- ◇明るく元気な子

教育目標実践化

- あ あいさつ
- い 一生懸命
- う 美しい歯
- え 笑顔
- お 思いやり

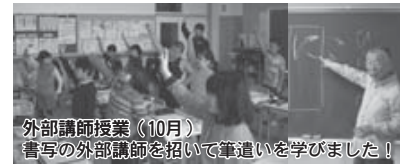
勇足小学校（濱田和光校長：全校児童42人）では、「自分を大切に 人を大切に 毎日を大切に」を合い言葉に児童一人一人の豊かな人間性の育成を目指しています。地域の豊かな自然・人材を活用した教育活動を通して、子供たちは伸び伸びと元気いっぱい学校生活を送っています。



全校マラソン記録会（10月）
目標タイムに向かって走ります！



道徳の研究授業（10月）
今年度より教科になった道徳の授業改善研修を行っています！



外部講師授業（10月）
書写の外部講師を招いて筆遣いを学びました！



搾乳体験（9月）

帯広畜産大学にて乳搾り体験



修学旅行（9月）

6年生：小樽水族館見学



帯広動物園見学（9月）



本別公園（9月）
生活科見学体験学習
秋を感じる体験

立江交流

7月20日から22日、5・6年生15人と引率4人の19人で徳島県小松島市立江へ行ってきました。

初めて海で泳ぎました

稲刈り（10月）
JA青年部の協力で今年も稲がすくすく育ちました！

地域おこし協力隊が行く



Part 5

「地域おこし協力隊」農福連携事業支援員の岩崎（旧姓柏木）祥子さんが、その取り組みや本別町の暮らしについて、紹介します。

着任から1年半、春夏秋冬を経験し、すっかり道産子気取りになったのも、本格的な冬の始まりにそわそわ出した岩崎です。昨年は不注意で家の鍵がロックされてしまい、冬の寒空に放り出された苦い経験がありました。今年は万全の策をもって冬を迎えたいと決意を固くしています。

さて、広報ほんべつに掲載されるのは今回で3回目。皆さんそろそろ「農福連携」の言葉は覚えていただけたでしょうか？前回「町内では現在、福祉施設の利用者が実際に農家に出向いて仕事を始める連携が始まっています」という内容を紹介しましたが（皆さん読んでいただけましたか？）、今回は農家ではなく、新たに商店と福祉施設とで始まった連携について紹介します。

青天のもと、どん菓子用のとうもろこしを収穫



「たい」と、それぞれのニーズが重なり連携が始まりました。比較的取り組みやすい作業という点もあり、これまで農家への作業には参加できなかった利用者にとっても、地域に出て働く新たな機会となっていました。

総合マネジメント障がい福祉推進課
0221-819020

国民年金 コトナ年金

障害基礎年金について
ご存知ですか？

障害基礎年金は、病気やけがによって、一定以上の障がいの状態にある人が、次の要件を全て満たすときに受け取ることが出来ます。

- ① 初診日
障がいの原因となった病気やけがの初診日が、次のいずれかの期間であること。
・国民年金加入期間
・20歳前の年金未加入期間
・60歳以上65歳未満の期間で、国内に住んでいる人（年齢基礎年金を繰り上げ受給している人は除く）
初診日とは？
障がいの原因となった病気やけがについて、初めて医師または歯科医師の診療を受けた日。
- ② 障がいの程度
障がいの程度が障害認定日時点、または65歳に達する日の前日まで、障害等級表の1級または2級に該当する障がいの状態になったとき。

障害認定日とは？
障がいの程度を定める日。その障がいの原因となった病気やけがの初診日から1年6か月を経過した日、または治つた場合（症状が固定した日）はその日。

③ 保険料納付
初診日が20歳以降の場合、初診日の前日において次のどちらかの要件を満たすこと。
・初診日の属する月の前々月までの保険料納付済期間と保険料免除期間を合わせた期間が、加入期間の3分の2以上あること
・初診日の属する月の前々月までの1年間に保険料の未納がないこと
初診日が20歳未満の場合
保険料の納付要件はありません
障害基礎年金を受けするためには手続きが必要です。詳しくは帯広年金事務所にご相談ください。予約相談の受付は、日本年金機構の「予約受付専用電話」で行っていますので、ぜひご利用ください。

予約受付専用電話
0157-0514860
帯広年金事務所
0157-0515001
詳細は
住民課「年金担当」
0221-812188
日本年金機構のホームページは
<http://www.nenkin.go.jp/>



勇足小で理科博士が授業 11 1

本別高校の近藤浩文校長と北海道教育大学釧路校の中山雅茂講師が理科の授業を行う異校種（大学・高校・小学）連携が11月1日、勇足小学校（濱田和光校長）で行われました。この日は同教育大で所有している流水実験装置を同小学校に持ち込み、5・6年生15人を対象に理科実験「流れる水のはたらき」を実施。児童は4グループに分かれ、砂と模型を使ってカーブのある川をつくり、水が流れることでその経路がどのように変化するか、流れる水の深さや幅を変えながら実験を繰り返し、グループで話し合いながら理解を深めました。



健康野菜を新たな地域資源に！ 11 1

町内で栽培されている世界三大健康野菜（ヤーコン・キクイモ・アビオス）を活用した料理勉強会が11月1日、道の駅「ステラ★ほんべつ」で開催されました。これは、町内の若手農業者や商業者らで取り組む「高収益作物産地化プロジェクト」の一環で開かれたもの。札幌でスープカレーショップを営む雅楽の福生雅寿代表と札幌のスイーツ店を営むROMANTRUSTの竹口健児代表を招いた講演会と試食会が行われ、若手農業者や商業者、関係者など46人の参加者が、新たな販路拡大や地域資源を経済に結びつける方法などについて語り合いました。



身近な相談所「認知症カフェ」開設 10 23

清流の里「認知症カフェ」が10月23日、小規模多機能型居宅介護事業所「清流の里」で開かれました。同カフェは、当事者や家族のほか関心のある人は誰でも参加することができ、認知症について相談や情報交換を行うことを目的に実施。この日は町地域包括支援センターの荒文枝保健師が認知症の症状や接し方などについて講話し、「家族の人は一人で抱え込まないで、外に出てこのカフェなどで相談することが大事」とアドバイスしました。続く茶話会では、各テーブルでフリートークが行われ、約20人の参加者はそれぞれの思いを話し合いました。



300人が交通安全を呼び掛ける 10 26

町交通安全推進委員会（会長＝高橋正夫町長）が主催する本別町秋の交通安全街頭啓発「人の波運動」が10月26日、役場前駐車場などで行われました。役場前で行われた開会式では、高橋会長が「事故のない本別町を推進しましょう」とあいさつ。参加者約300人は北1丁目から北4丁目までの国道242号線沿いへ移動し、「スピードダウン」と書かれた旗を手に持ち、道行くドライバーへ交通安全を呼び掛けました。



女性消防団員が防火をPR 10 15

秋の全道火災予防運動に合わせ、本別消防団（伊藤英昭団長）の女性消防団員4人が10月15日、町内のスーパー店舗前で火災予防を呼び掛けました。火災予防のタスキを掛けた同団員らは、家庭用の消火器や火災警報器などを展示し、買い物に訪れた人へ予防啓発チラシやグッズを配布。「火の元に気をつけて」と声を掛けました。また、防火パレードが同日、町内で行われ、町危険物安全協会の車両11台と消防車両7台が町内約5kmを走行し、防火を呼び掛けました。



手打ちそばを堪能 10 14

小規模多機能型居宅介護事業所「ゆうあいの里」による秋のまつり「地域のそば屋」が10月14日、勇足生きがい館で行われました。施設職員や同事業所運営推進委員らが手打ちそばのほか、炭火で焼いたサツマイモやきのこなどを振る舞い、利用者や地域の人など約90人は秋の味覚を頬張り、楽しいひとときを過ごしました。



防災意識を高める 10 14

向陽町自治会（木南孝敏会長）の避難訓練が10月14日、ふれあい交流館で行われました。同自治会では初めてとなる訓練は震度6強を想定して行われ、屋外拡声器と広報車巡回によって訓練開始の合図が放送されると、住民は火の始末やガスの元栓閉めを確認してから徒歩で会場に集合。各班長から避難者の人数などが報告されました。会場では、警察署および消防署からの講評の後、町の防災担当者から非常食や毛布など避難所における備品等が紹介され、続いて2班に分かれて避難所で使われるダンボールベッド作りを実施。106人の参加者は真剣なまなざしで防災意識を高めました。



農大市が大盛況 10 20

農業大学校（山黒良寛校長）の農大市が10月20日、同校で開催されました。午前9時30分の販売開始前から多くの来場者が会場に詰め掛け、学生らが丹精を込めて栽培、飼育した農畜産物や加工品など、両手いっぱい商品を購入。人気の豆類やごぼうなどは販売まもなく売り切れました。また、試食コーナーでは和牛の焼き肉や、砂糖の原料となるテンサイの素揚げ「ビートチップス」などが提供されたほか、野菜の詰め放題も行われ、会場は大いににぎわいました。



未来に輝く子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。お父さん、お母さんのたぐさんの愛に包まれてすくすく元気に育ってね!



北丁目
齋 仁太
(由希ママ)



北丁目
杉本 音羽
(沙知ママ)

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

みんなの健康

412

インフルエンザの予防接種は済まされましたか? インフルエンザにかかると肺炎を起こしやすくなるため、肺炎球菌ワクチンも併せて接種する、効果的に予防できます。肺炎は、日本人の死因第3位、肺炎による死亡者の約95%は65歳以上というデータもあり、加齢とともに免疫をつかさどる細胞の数が減少し免疫力が低下するため、どんなに元気でも肺炎球菌による感染症にかかるリスクが高くなります。また、糖尿病、心疾患、呼吸器疾患、腎不全などの慢性疾患をお持ちの人や病気の治療中での免疫力が低下している人、タバコを吸っている人は、健康な人よりもさらにかかりやすく、また重症化しやすいです。

65歳からの肺炎球菌ワクチン

肺炎の原因菌は、肺炎球菌であることから、国は平成26年10月から高齢者の肺炎球菌感染症の定期接種を開始しました。接種することにより、感染予防と重症化を防ぐことができます。接種は65歳以上の人で、免疫が度かかります。また、一回の接種で5年以上の免疫が持続するといわれ、季節を問わずに接種が可能です。5年以上の間隔をあけて再接種することも可能です。その際は任意接種として取り扱われます。



本別町国民健康保険病院
薬局長
三ッ石 雅人

副反応に関しては、接種時の発赤や腫脹は冷湿布、じんましんには抗アレルギー薬の投与、発熱には解熱鎮痛剤投与等の対症療法で行うこととなりますが、詳しくは、かかりつけ医やお近くの医療機関にご相談ください。

スマイルボランティア

献血活動に尽力。銀色有功章受賞

今年7月の第54回献血運動推進全国大会で「日本赤十字社銀色有功章」を受賞した、本別ライオンズクラブ(岡崎勉会長)と本別白鳩会(前田学会長)への表彰伝達式が11月2日、役場で行われました。この章は献血活動を15年以上継続的に行っている企業・団体に贈られるもの。伝達式では、本別町献血推進協議会会長の高橋正夫町長から章と記念品がそれぞれの団体に手渡されました。同白鳩会はRHマイナスの血液型の人たちで構成される団体で、章を受けた熊本芳子副会長は「今後も活動を続けたい」と語りました。



まちの情報を広報電算担当へお寄せください ☎22-8121

ご寄付ありがとうございます

平成30年10月16日から11月15日

次の通りご寄付をいただきました。紙上に厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- ★本別中学校教育振興物品指定
金100,000円..... 匿名
- ★本別消防団物品購入費
金50,000円..... 大樹町 山下 勇

- ★本別町国民健康保険病院指定
ポータブルDVDプレーヤー 2台
..... 大樹町 山下 勇
 - ★仙美里へき地保育所指定
牛乳贈答券10,000円
..... 拓農酪農振興会 会長 佐々木信幸
 - ★老人ホーム指定
もち米30kg..... 匿名
- 個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付
計 金5,340,000円..... 341人

足寄町

冬の博物館

寒い冬も博物館で化石を楽しむ「冬の博物館」(全4回)が今年も開かれます。雪の中から化石やクリスタルが入ったカプセルを発掘し、ペンダントづくりを行います。ぜひご参加ください。

12日(土)

- ① 午前10時～午前11時30分
- ② 午後1時30分～午後3時

□場 所 足寄動物化石博物館
□内 容 雪中化石探検、化石・クリスタルを使ったペンダントづくりほか
□費 用 500円
□人 数 各回先着10人
※小学3年生以上の参加は保護者の同伴が必要です
□問い合わせおよび申し込み 足寄動物化石博物館
☎2519100

陸別町

ふたご座流星群観望会を開催します!

年間で安定して流れ星を楽しめる流星群のひとつ、ふたご座流星群がやってきます。最も多いときには、1時間に40個程度の流星が観測されると予測されています。今年も銀河の森天文台で観望会を開催します。防寒着など寒さ対策をして、ぜひお越し下さい。

12月13日(木)～15日(土)
午後1時～午後9時30分
(説明会 午後7時30分)

□場 所 陸別町 銀河の森天文台
□参加方法 予約不要・申し込み不要(入館料のみ)
□問い合わせ 銀河の森天文台
☎2718100

本のある暮らし 213

図書館のPRに役

～2018職場体験～

戸籍のまど

お誕生

10月後半から
11月前半の
届出分

小川ひまりさん 翔也さん 10/30 北5丁目
白茉莉ちゃん 小春さん

ご結婚

(薩田雅哉さん 弥生町
徳満千亜紀さん 千歳市)

おくやみ

佐藤ミヨ子さん 85歳 10/18 向陽町
篠原一明さん 88歳 10/20 北5丁目
柿本とみさん 82歳 11/9 栄町

読書の秋、図書館で本別高校1年生3人、本別中学校2年生4人の職場体験が行われました。職場体験としては初めてとなるテレビ、ラジオでの情報発信もあり、いきいきと大活躍。中高生の皆さんにとって、この「伝える仕事」の経験が、今後の人生に役立つことを期待します。

「ビバ!本別」に出演

10月16日・17日
本別高校1年生



収録はテイク2で終了。(あー緊張した!)

カウンター業務、新刊書の整理、POPづくり、保育所に貸し出しする絵本の選書、インターネットで図書検索などの仕事を体験しました。また、OCTVの番組に出演し、「本のまち夢づくり講演会」を告知。3人で協力し、爽やかに大役をこなしてくれました。(10/27～11/9放送)

心が伝わる選書

10月24日・25日
本別中学校2年生



学童保育所の子供たちに、楽しく読んでほしいな...

新刊書の整理、カウンター業務、学童保育所に貸し出しする本の選書のほか、FMウィングに電話で生出演。本別町紹介コーナーの最後に「講演会、お待ちしております!」と声をそろえてアピールしました。また、各自楽しみながらPOPを作成し、図書館で高校生の作品とともに展示されました。

わたしたちのまち

前月比
人口 7,108人(-4)
男 3,484人(-5)
女 3,624人(+1)
世帯数 3,685戸(+1)
〔10月末日住民基本台帳〕

お問い合わせ先
本別町図書館
(愛称:ぶっくるーあ)
本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112



読書週間
「中高生のPOP展」